

福建師範大学での留学生活について

2017年奨学金生

山本佳奈子

那覇市から約800キロメートル西に位置する福州市に約11ヶ月滞在しました。福州市倉山区に位置する福建師範大学海外教育学院へ留学し、中国語普通話を学びました。

私は2015年より公益財団法人沖縄県文化振興会（通称・沖縄アーツカウンシル）においてプログラムオフィサーとして勤務し、フリーランスの仕事としては、ライターやコーディネイターとしても活動しており、中華圏を中心としたアジアの文化情報を扱っています。

今回の派遣留学においては、まずは自身が日常会話レベルの中国語普通話を習得することを目標としました。

【留学環境について】

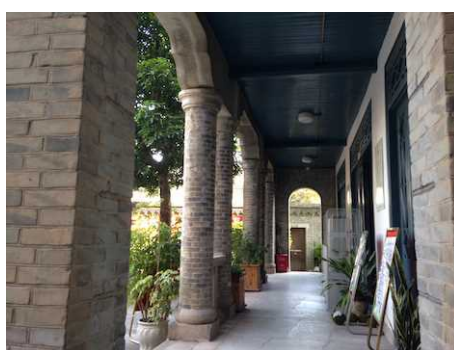
福建師範大学では、9月からの4ヶ月間、3月からの4ヶ月間の2期に分けて授業を受けました。留学期間はトータルで11ヶ月間となりますが、この4ヶ月間ずつ福州に滞在していれば修了できるので、その間に帰国することも可能でした。

語学の授業は月曜から金曜まで午前3時間のみ。午後は、履修自由となる太極拳、切り絵、書道などのカリキュラムがあります。

現在、孔子学院（中国における国際交流基金のような組織で、文化活動に関する支援と奨学金事業を行っているようです）が積極的に東南アジアからの留学生を誘致していて、福建師範大学留学生の約8割ほどがアジアからの留学生です。そのためもあってか、社会人留学生が非常に少なく、35歳で留学した私にとっては少し肩身がせまい環境でもありました。

多くの学生は英語を話せません。また、街に出れば英語は一切通じないので、中国語を覚えなければ誰ともコミュニケーションが取れない、という、追い詰められた状況は存在します。

そういった状況もあり、留学生生活を終える頃には、ごく一般的な日常会話はできるようになりました。また、寮は教室から歩いて5分の場所にあり、一人部屋に滞在しました。



（写真左：海外教育学院の校舎 中：林森旧邸宅のこども図書館 右：古い建築を利用したカフェ）

【周辺環境について】

福建師範大学海外教育学院の校舎は、築約100年の旧华南女子文理学院校舎を利用しており、この建物は福建省の文化財として登録されています。

福建師範大学が位置する倉山区には他にもたくさんの登録文化財があり、約100年前に建てられた中華民国時代の貴重な建築物が至る所に残っています。授業後や休みの日には、こういった古い建築を歩いて見て回ることが非常に有意義でした。寮の裏には、蒋介石と宋美齡の秘書を務めた人物が約10年間住んでいた建物もありますし、少し歩けば林森の旧邸宅もあります。林森の旧邸宅は、現在こども図書館として福州市に管理されており、土日のみ建物内に入ることができます。

こういった古い建築群を眺めて、その建築の歴史を調べていると、中華人民共和国と中華民国に分かれる前の、福建～台湾あたりの歴史についてより興味を持つことができました。一時帰国の際にはそういった歴史について触れた書籍を調べ学びました。

また、そういった古い建築を利用したカフェなども、今福州市全域に増えています。中国といえどどんどん高層ビルが建ち、街が開発されていくイメージを持っていましたが、福州市、特に倉山区では住んでいる人たちが率先して、古き良きものへの愛着を生活から表現しています。

今後、旅行資金を貯めることができれば、数日間かけてじっくり建築を見て歩き回りたいと願っています。

【大学内での沖縄文化】

福建師範大学にはエイサーサークルがあります。また、私が在籍していた沖縄県文化振興会によるこれまでの福建省へのアプローチにより、福建省内の他大学にもエイサーサークルが存在します。福建省でのエイサー大会を鑑賞してきましたが、優勝した福建師範大学のエイサーは、沖縄のエイサーをそのまま演舞するのではなく、閩南の音楽や文化を取り入れたものでした。琉球大学に留学し那覇太鼓で学んだ学生が当時サークル長を務めていましたが、彼は、他地域の文化と自分のアイデンティティについて熟考し、沖縄のエイサーをそのままコピーするよりも、独自のものを作り出したかったそうです。福建省でのエイサー大会は小さな規模でしたが、互いの文化が人を惹きつけていることを、現場の熱気で体感しました。



(写真左：福建省でのエイサー大会のようす 右：福州閩劇院で鑑賞した閩劇)

【福州市内での文化体験】

先に述べた倉山区に多く残る古い建築群も、福州市内の文化として見どころのひとつですが、福州市内のいくつかの劇場で、閩南地域のチャイニーズ・オペラ「閩劇」を観ることができます。私は音楽・舞台関係の制作に携わることもあるので、言葉はわからなくても積極的に観賞しに行っていました。ちなみに、閩劇で使われる言葉は中国語普通話ではなく、福州話だそうです。

福州閩劇院では、年に数回しか公演がありませんが、緊迫感のある公演が観られます。他の劇場では、一般的なチャイニーズ・オペラである京劇や、女性のみで演じられる越劇の巡回公演を観ることもできました。

福建博物館の展示も素晴らしいですが、福州市の中心、三坊七巷の隣にある林則徐記念館では、林則徐の生い立ちと高官として成し遂げた仕事の数々、また、当時の清代における福州周辺の状況を知ることができます。アヘン撲滅のために奔走した林則徐はまさに福州市出身で、この記念館は林則徐の旧邸宅を改築して作られています。展示資料が豊富で、非常にわかりやすく展示されています。

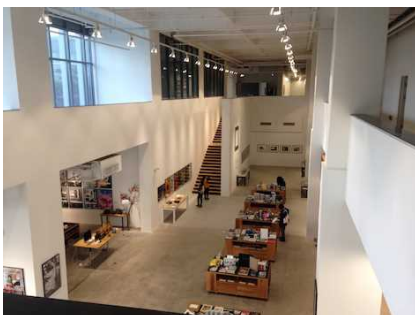
また、福建といえばお茶の文化が根付いており、道端に椅子とテーブルを出してお茶を飲んで話し込んでいる人を日常的に見かけました。私も、大学から近い茶館に通って、様々なお茶を飲ませてもらい中国茶の魅力にとりつかれています。日本では茶道はひとつの儀式のように捉えられますが、中国のお茶は、あくまでもカジュアルに、人と会話をするための媒介であるように思います。知人友人と話があるから茶を囲んだり、美味しい茶が手に入ったから知人友人と茶を中心に集まったり。コミュニケーションのあいだにいつも茶がある福建の人たちの暮らしを、私も最近真似ています。しかし、良い茶器は高額で、茶葉も高級なものは500グラムで数千円、数万円することもありますから、自分の身の丈にあった茶を選ぶように心がけています。

【福建省内への旅行】

留学期間中に、個人旅行で厦門（アモイ）、泉州、平潭などへ行きました。特に泉州は琉球からの進貢船が度々来航していたこともあり、沖縄との類似した雰囲気をもく感じました。咲き乱れるデイゴや力強いガジュマルに彩られた道路は、沖縄と同じ光景です。そして、現在も泉州市内には石敢当がたくさん残っています。泉州市内の石敢当には八掛が彫られていたりもして、沖縄では普段意識しなかった石敢当の意味について、考えを巡らせるきっかけとなりました。

厦門はビーチも賑わいリゾート地でもあり経済特区でもあり、物流の拠点でもあります。にぎわう街の様子、観光客がたくさんビーチではしゃぐ様子、また、その裏でひっそりと地元の人に愛される市場が残っている様子。これらを眺めたとき、今の沖縄と鏡写しに感じました。地元の若者たちが小さな文化アンテナショップ、カフェを営んでいる通りもあります。港には大きなクルーズ船が就航しますし、すぐ近くには台湾の領土である金門島があります。もしかすると、厦門と沖縄では、いろんな課題や問題も共有できるのかもしれない。

厦門に位置する写真美術館「三影堂」（※元々は北京に建てられた私設写真美術館の分館です）では、毎年大規模な国際写真展『集美×アルル国際写真フェスティバル』が開催されます。2017年のフェスティバルに足を運びましたが、学生～20代前半の中国若手写真家をたくさん取り上げ、また写真芸術の定義を広く捉えて現代美術やメディアアートをも含んだ祭典となっています。沖縄も、優れた写真家や写真芸術を数多く生み出した場所であり、今後、厦門とは文化芸術を通じた具体的な交流が盛んになっていくのでは、と予想しています。厦門三影堂内のショップにて、小さな沖縄コーナーが設けられており、東松照明氏や石川竜一氏の写真集が販売されているのを見ると、やはり嬉しくなりました。



(写真左：厦門の三影堂 中：泉州市内の音楽ホール「南音芸苑」 右：泉州市内の石敢当)

【まとめ】

退職し約一年福州市に住むことは、社会人としては少々リスクの高いことだったと思います。しかし、日々忙しい生活の中では割くことのできなかつた学びの時間を得た一年でした。そして、日常会話レベルの中国語普通話を習得できたことは、自身のキャリアアップにつながりました。事実、留学後に中国にて行われた演劇祭に制作担当として関わることができました。退職や休職の手続きは非常に困難が多いですが、もし今中国や中国語に興味があり、留学によるキャリアアップを検討している方には、この事業を活用されることをおすすめします。留学中、福建省外事弁の方々とは交流できたことも、今回の大きな収穫でした。

また、中国の文化芸術や、これまでの沖縄・中国の関係史に興味があるという方も、現地で様々な史跡、資料を実際に見ながらリサーチができる貴重な機会です。語学の授業はさほど忙しくないのので、授業以外の時間を自身の研究に活用できるかと思います。

沖縄に戻り、現在私は、一般社団法人那覇市観光協会にてクルーズ船受入のチームにて働いています。中華圏からの観光客と接することが多い職務なので、中国語普通話を継続的に使い、新しい言葉も学べる環境です。

また、帰国後は、より沖縄の文化を知ることになりました。留学中、沖縄県・福建省友好県省締結 20 周年記念事業の一部に参加させていただいたのですが、その中で鑑賞した琉球舞踊は言葉にし難い美しさでした。海外で沖縄の芸能を観ることにより、沖縄の芸能の素晴らしさをあらためて深く理解することができ、実に良い機会でした。この経験を経て、現在は、気になった芸能公演や展示には必ず足を運ぶようにしています。

台湾に関するイベントは県内で多く開催されていますが、中国、特に福建については情報がまだまだ不足している状態です。また、逆に、福建に住む人たちの多くも、実は沖縄と福建が長い交流の歴史をもっているということを知りませんし、沖縄の地理的位置を知らない人もたくさんいます。これから徐々に互いの理解が深まるように、まずは自分の周辺に福建の自然や文化の素晴らしさを知らせていきたいですし、また、今後も福建へ旅行する機会を定期的に作っていきたいと思います。